

翔

2007 June
No.186

百万石蝶談会



アサマイチモンジをタニウツギから採卵し成虫まで飼育

大 脇 淳

アサマイチモンジ (*Limenitis grolifica*) は、近縁のイチモンジチョウ (*Limenitis camella*) に比べ狭食性であると考えられている。福田ら (1983) によると、イチモンジチョウの食草はスイカズラ科スイカズラ属のスイカズラ、キンギンボクなどやタニウツギ属のタニウツギ、ヤブウツギ、ニシキウツギなど様々なスイカズラ科の植物が知られているのに対し、アサマイチモンジの食草は、ほぼスイカズラのみに限定され、その他は栃木県奥日光の高地帯でのニシキウツギ、岐阜県のキンギンボク、長野県のツキヌキニンドウ（植栽植物）しか知られておらず、後者2種は極めて例外的な食草とされる。しかし、近年発行された「日本産蝶類幼虫食草一覧（仁平 2004）」には、アサマイチモンジの食草としてタニウツギが追加された。だが、実際にアサマイチモンジがタニウツギで卵から成虫まで生育したという報告は、ほとんどないと思われる。筆者は、アサマイチモンジのタニウツギへの産卵を目撃し、それを採卵した後、成虫まで飼育させることに成功したので、ここに報告する。

2002年6月13日に、富山県福光町医王山の標高約700mの地点（国見ヒュッテ）で、午前10時頃アサマイチモンジがタニウツギに産卵するのを目撃した。そのタニウツギからアサマイチモンジの卵を計4卵入手したので、プラスチックカップに入れてタニウツギで飼育したところ、全て無事に成虫になった。個々の卵の詳細な生育日数は表-1の通りである。なお、卵は全て葉の裏面に産み付けられており、葉の表面からは見つからなかった。

表 1. アサマイチモンジの生育日数

個体	孵化日	蛹化日	羽化日	孵化～羽化までの日数
A	2002, 6, 14	2002, 6, 30	2002, 7, 5	21
B	2002, 6, 16	2002, 7, 5	2002, 7, 12	26
C	2002, 6, 18	2002, 7, 6	2002, 7, 13	25
D	2002, 6, 19	2002, 7, 7	2002, 7, 13	24

タニウツギは、太平洋側に生育するニシキウツギの日本海側対応種と言われており、石川県では標高50m前後の低地から1000m以上の高地帯まで広く分布する。一方、スイカズラは主に低地に分布し、標高600m以上には分布しない（石川県地域植物研究会 1994）。

5万分の1の地図を16等分して石川県を225のメッシュに区切ったところ、そのうち39メッシュでアサマイチモンジが確認されている（図1. 2002年8月現在）。確認された39メッシュのうち、5メッシュは全て標高600m以上（図1. の斜線メッシュ）、11メッシュは大部分が600m以上（図1. の縦線メッシュ）であった。これら高標高の16メッシュにはスイカ

ズラが生育している可能性は極めて低く、アサマイチモンジはタニウツギを利用している可能性が高い。また、600m以下の低標高地でも、石川県ではタニウツギはかなり普遍的に見られることから、もしかしたら低地でもスイカズラと共にタニウツギも利用しているかもしれない。

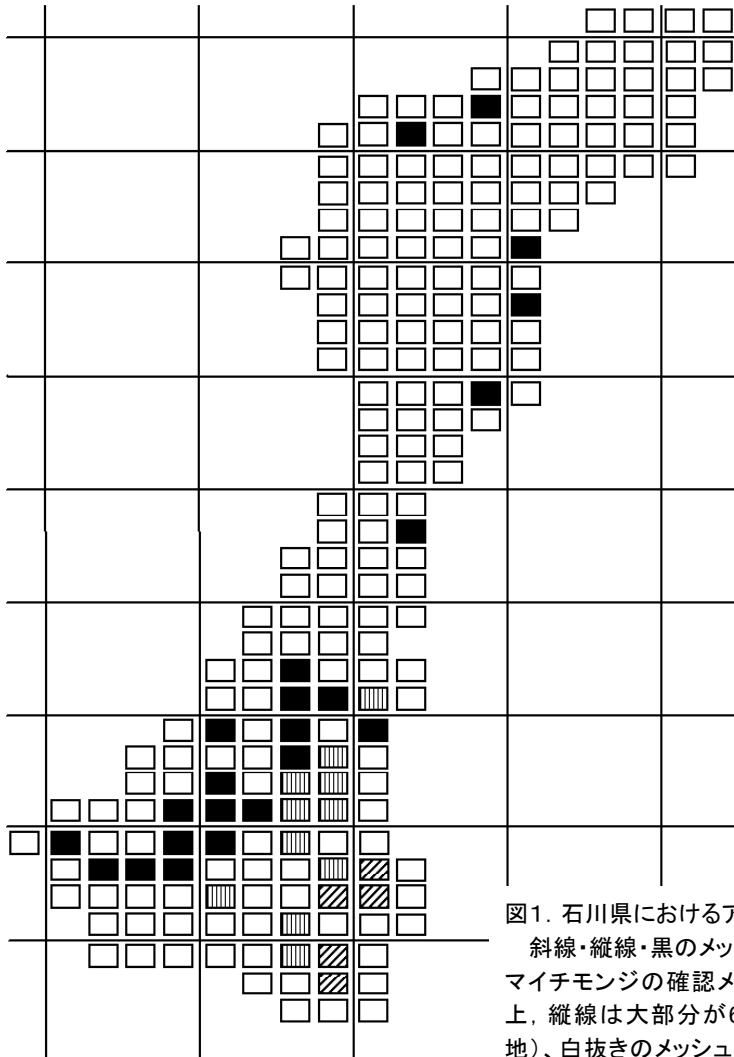


図1. 石川県におけるアサマイチモンジの分布

斜線・縦線・黒のメッシュは2002年8月の時点でのアサマイチモンジの確認メッシュ(斜線は全て標高600m以上、縦線は大部分が600m以上、黒は600m未満の低地)、白抜きのメッシュは未確認メッシュを示す。罫線は国土地理院の5万分の1の地形図の大きさを表す。

イチモンジチョウとアサマイチモンジは各地で同所的に共存するが、食草の選好性の違いや、日当たりなど食草の生育場所の選好性など、両種の共存機構の解明が待たれる。

末筆ながら、アサマイチモンジの分布データを提供していただいた松井正人氏、タニウツギとニシキウツギの関係についてご教示頂いた梅林正芳氏に深く感謝申し上げます。

《 参考文献 》

福田晴夫・浜栄一・葛谷健・高橋昭・高橋真弓・田中蕃・田中洋・若林守男・渡辺康之 (1983)

原色日本蝶類生態図鑑Ⅱ. 保育社, 大阪.

石川県地域植物研究会編 (1994) 石川県樹木分布図集. 石川県林業試験場.

仁平 勲 (2004) 日本産蝶類幼虫食草一覧. 岩峰社, 東京.

輪島市で再びキタテハの黒化異常型を採集

日 吉 芳 朗

2006年10月30日、輪島市中段町堂下でキタテハの黒化異常型1♂を採集した。サワアザミで吸蜜していたもので、他に2♂2♀を採集したが、これらはいずれも正常型であった。同地点では、2002年10月18日、日吉南賀子が黒化異常型1♀を採集している（日吉芳朗・日吉南賀子、2003）。これらを比較すると、後翅表面の黒斑は、2006年の個体は広がりややむらがみられるのに比し、2002年の個体はほぼ全体に広がっている。なお、両者の前翅表面と前後翅裏面の斑紋に異常はない。また前翅長は、前者は23mmと小型であるが、後者は27mmと普通サイズである（図1）。

キタテハ 2006年10月30日 輪島市中段町堂下 1♂（異常型） 日吉芳朗

これら2頭の採集地点は、筆者が確認した限りにおいて、輪島市でキタテハが安定して発生する唯一の地点であり、2002年から2006年の5年間に105頭を採集したものの、異常型はこれらのみであった。また、採集個体の58%にあたる61頭が秋型で、異常型はいずれも秋型であった。

過去に報告された黒化異常型は、筆者の知る範囲で全国に8頭あり、夏型は3頭、秋型は5頭と、秋型がやや多いようにみえる。また、性比をみると♂4頭、♀2頭、不明2頭であり、その差違の判断は難しい。

本稿を記すにあたり、松井正人氏より多々ご教示をいただいた。

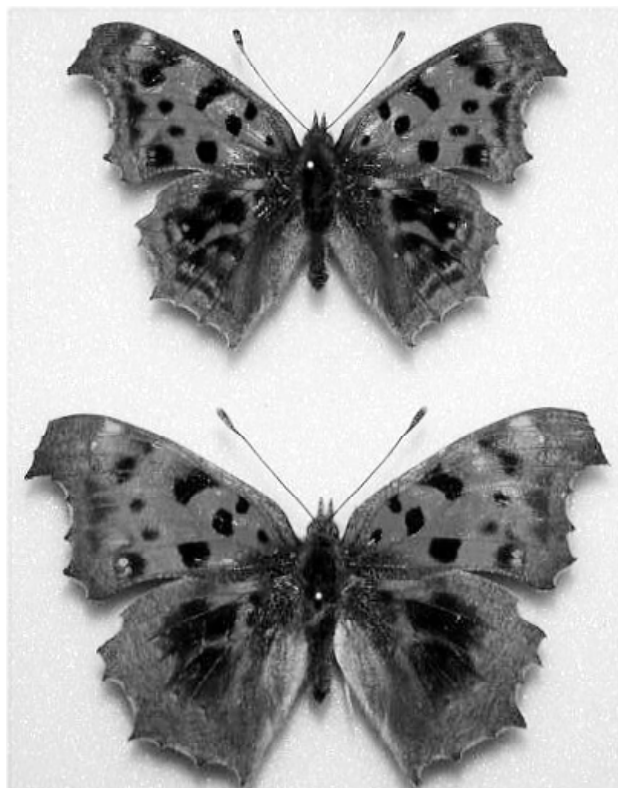


図1 輪島市で採集されたキタテハの黒化異常型
（上：2006年採集♂、下：2002年採集♀）

《参考文献》

日吉芳朗・日吉南賀子（2003）輪島市のキタテハと黒化異常型の採集．翔（162）：1．

《ひよし よしろう 〒928-0001輪島市河井町1部64-1》

石川県に於けるアサギマダラの北上移動調査2006

松 井 正 人

長距離を移動するアサギマダラは、春には日本列島を北上し、秋には南下している。北上するときには、多数のアサギマダラが海岸のスナビキソウに飛来することが知られ、2004年と2005年の調査から、石川県のスナビキソウが生えている海岸には、5月下旬～6月中旬に飛来していることが明らかになってきた（松井、2006）。2006年も、多くの方々のご協力をいただき、継続して北上移動を調査することができたので報告したい。

■調査概要

石川県のスナビキソウが生えている海岸で、2006年5月3日から6月24日にかけてアサギマダラの飛来調査を行った。

アサギマダラは、5月20日から6月24日にかけて、珠洲市から加賀市にかけての29箇所で見られ、木陰や草陰のスナビキソウへの飛来、スナビキソウの燃え殻への飛来、スナビキソウへの♀の飛来も観察された。総観察数は1231頭で、959頭に移動を調べるためのマーキングを行った。再捕獲は109頭有り、大分県姫島からの長距離を移動した個体が3頭観察された。

■観察時期

2005年の調査では、5月下旬後期から6月中旬後期（5月26日～6月20日）にかけて、観察総数の90%以上が観察され、2006年の調査に於いても、5月下旬後期から6月中旬後期にかけて、全体の92%が観察された。

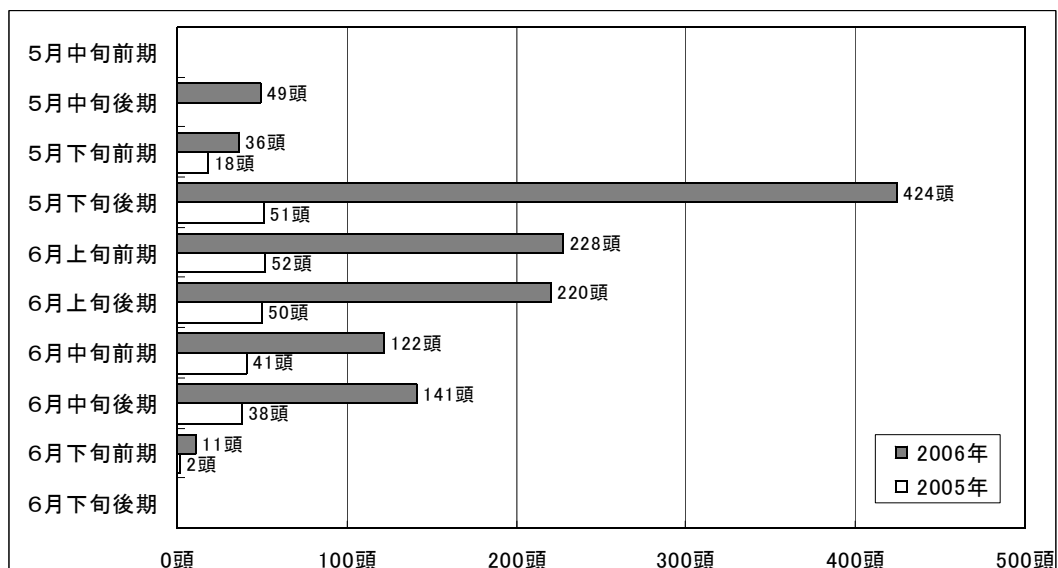


図1. 時期別観察数

■観察時間

2004年と2005年の調査では、午前11時までに観察総数の約80%が観察され、中でも6時台から8時台の3時間で全体の約60%が観察されていた。2006年の調査では、日中の暑い時間帯においても木陰や草陰のスナビキソウで観察することができたことから、6時台から8時台の観察は全体の約50%となり、9時台から17時台にかけては、徐々に観察数は減るものの、各時間帯にまんべんなく観察された。

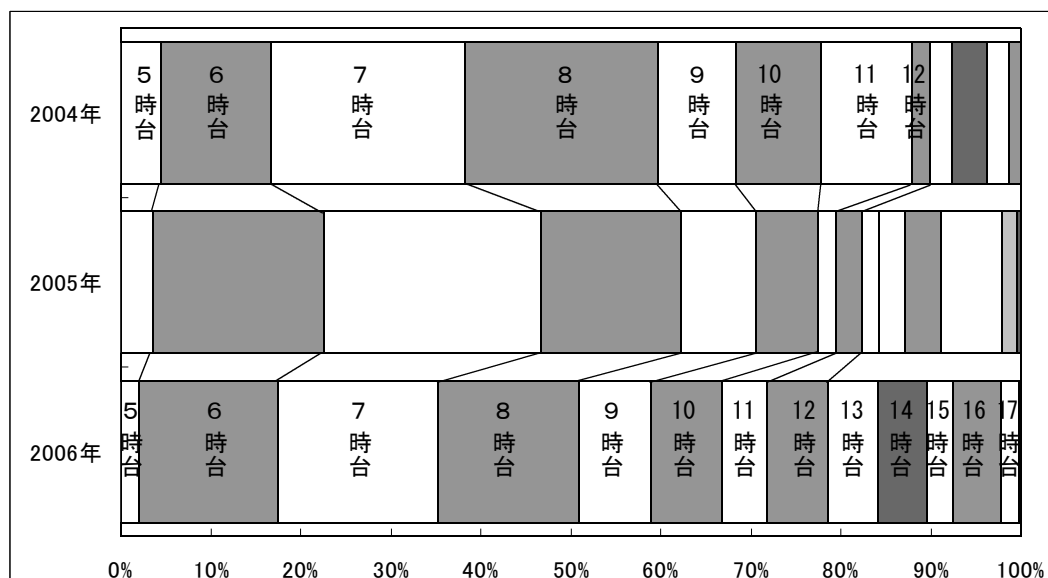


図 2. 時間別観察割合

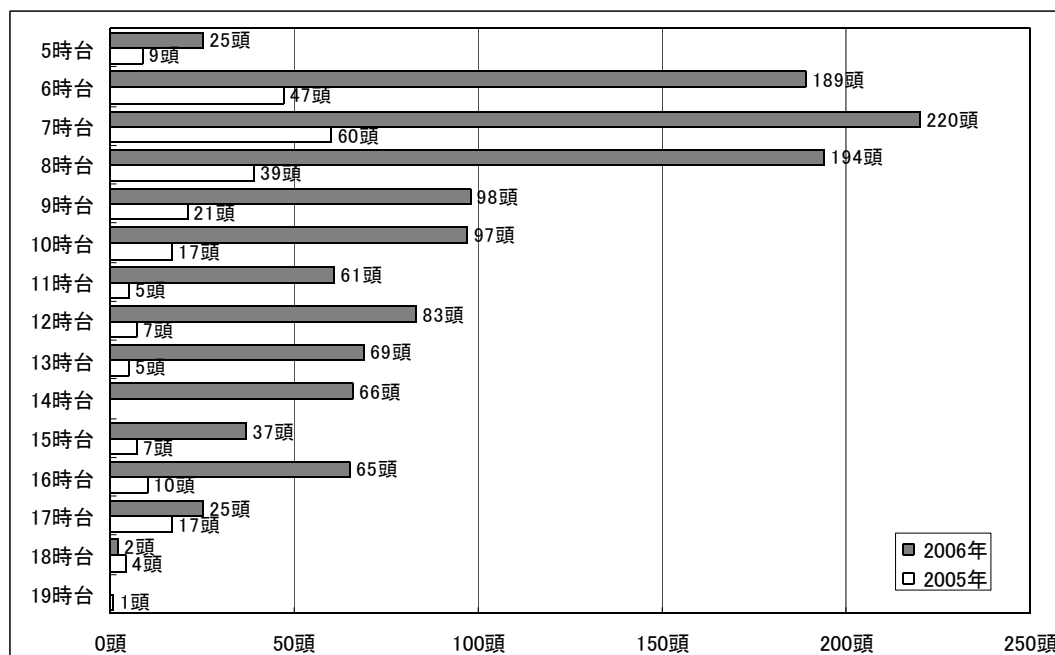


図 3. 時間別観察数

■木陰や草陰のスナビキソウへの飛来

海岸で観察されるアサギマダラは、6時から9時までの涼しい時間帯に多く観察され、曇天でも無い限り10時を過ぎると観察は難しくなるが、2006年の調査では、日中の暑い時間帯に木陰や草陰のスナビキソウで、観察することができた。

珠洲市狼煙海岸には、常緑広葉樹の海岸林があり、午後2時頃には木陰のスナビキソウに、多数のアサギマダラが群れていた。また、珠洲市の高屋海岸や大崎浜、輪島市門前町鹿磯浜では、暑い時間帯にヨシ群落の中に生えたスナビキソウにアサギマダラが止まり、驚かしてもヨシの中から飛び出さず、ヨシの根元付近を飛んでいた。



図4. 木陰のスナビキソウに飛来したアサギマダラ
(2006年5月31日午後2時20分、珠洲市狼煙海岸)

■スナビキソウの燃え殻への飛来

雨上がりの海岸で、スナビキソウの燃え殻に口吻を伸ばす多数のアサギマダラを観察した(松井、2007)。多くのマダラチョウ科の♂は、ピロリジジナルカロイドを枯葉、茎、根などから摂取することが知られ(本田ほか、2007)、スナビキソウにも、ピロリジジナルカロイドが含まれていると思われる。

2006年5月20日 石川県羽咋郡志賀町増穂浦 35♂(スナビキソウ燃え殻) 松井正人

■スナビキソウへの♀の飛来

海岸で観察されるアサギマダラは、♂ばかりで♀が観察されるのは、ごく稀である。これは、♂が性成熟するために必要なピロリジジナルカロイドを、スナビキソウが含んでおり、それを摂取するために♂が飛来すると考えられている(藤井ほか、2005)。今回の調査では、♂1132頭、不明96頭、♀3頭が海岸で観察され、そのうち♀2頭が、スナビキソウの花に口吻を伸ばしているのが観察された。3頭の♀はいずれも、腹部にしこりと交尾斑がある既交尾個体だった。

2006年6月 3日	石川県輪島市門前町鹿磯浜	1 ♀(既交尾、スナビキソウ)	松井正人
2006年6月10日	石川県輪島市光浦町袖ヶ浜	1 ♀(既交尾)	日吉芳朗
2006年6月12日	石川県輪島市光浦町袖ヶ浜	1 ♀(既交尾、スナビキソウ)	日吉芳朗

■再捕獲

マークの付いた個体が捕獲される再捕獲は、109例あった。放蝶地と再捕獲地の直線距離が500km以上の長距離を移動した個体の再捕獲が3例、100km未満の短距離を移動した個体の再捕獲が11例、放蝶地と再捕獲地が同じ場所で、同じ場所に1日以上留まっていたと思われる放蝶した日の翌日以降の再捕獲は95例だった。

□長距離移動

1. 2006年5月15日 大分県東国東郡姫島村みつけ海岸 中城信三郎 放蝶 ♂
→ 2006年6月4日 石川県輪島市光浦町袖ヶ浜 日吉芳朗 再捕獲
直線距離 630km 移動日数 20日
2. 2006年5月21日 大分県東国東郡姫島村みつけ海岸 栗田昌裕 放蝶 ♂
→ 2006年6月6日 石川県輪島市光浦町袖ヶ浜 日吉南賀子 再捕獲
直線距離 630km 移動日数 16日
3. 2006年6月1日 大分県東国東郡姫島村みつけ海岸 山下莉奈 放蝶 ♂
→ 2006年6月10日 石川県輪島市光浦町袖ヶ浜 日吉芳朗 再捕獲
直線距離 630km 移動日数 9日

□短距離移動

1. 2006年5月25日 石川県輪島市町野町大川浜 日吉芳朗 放蝶 ♂
→ 2006年5月27日 石川県羽咋郡志賀町鹿頭海岸 松井正人 再捕獲
直線距離 45km 移動日数 2日
2. 2006年5月20日 石川県羽咋郡志賀町増穂浦 松井正人 放蝶 ♂
→ 2006年5月31日 石川県珠洲市大崎浜 松井正人 再捕獲
直線距離 60km 移動日数 11日
3. 2006年5月20日 石川県羽咋郡志賀町甘田海岸 松井正人 放蝶 ♂
→ 2006年6月3日 石川県輪島市門前町鹿磯浜 松井正人 再捕獲
直線距離 35km 移動日数 14日
4. 2006年5月27日 石川県輪島市光浦町袖ヶ浜 日吉芳朗 放蝶 ♂
→ 2006年6月3日 石川県輪島市門前町鹿磯浜 松井正人 再捕獲
直線距離 20km 移動日数 7日
5. 2006年5月31日 石川県珠洲市狼煙海岸 松井正人 放蝶 ♂
→ 2006年6月4日 石川県羽咋郡志賀町増穂浦 松井正人 再捕獲
直線距離 70km 移動日数 4日
6. 2006年5月31日 石川県珠洲市高屋海岸 松井正人 放蝶 ♂
→ 2006年6月4日 石川県羽咋郡志賀町赤崎海岸 松井正人 再捕獲
直線距離 65km 移動日数 4日
7. 2006年5月31日 石川県珠洲市狼煙海岸 松井正人 放蝶 ♂
→ 2006年6月4日 石川県羽咋郡志賀町赤崎海岸 松井正人 再捕獲
直線距離 70km 移動日数 4日
8. 2006年5月31日 石川県珠洲市小浦出海岸 松井正人 放蝶 ♂
→ 2006年6月4日 石川県羽咋郡志賀町赤崎海岸 松井正人 再捕獲
直線距離 65km 移動日数 4日
9. 2006年5月31日 石川県珠洲市狼煙海岸 松井正人 放蝶 ♂
→ 2006年6月4日 石川県珠洲市大崎浜 松井正人 再捕獲
直線距離 10km 移動日数 4日
10. 2006年5月31日 石川県珠洲市木の浦海岸 松井正人 放蝶 ♂
→ 2006年6月4日 石川県輪島市光浦町袖ヶ浜 日吉芳朗 再捕獲
直線距離 35km 移動日数 4日
11. 2006年5月31日 石川県珠洲市大崎浜 松井正人 放蝶 ♂
→ 2006年6月4日 石川県羽咋郡志賀町甘田海岸 松木隆也 再捕獲
直線距離 70km 移動日数 4日

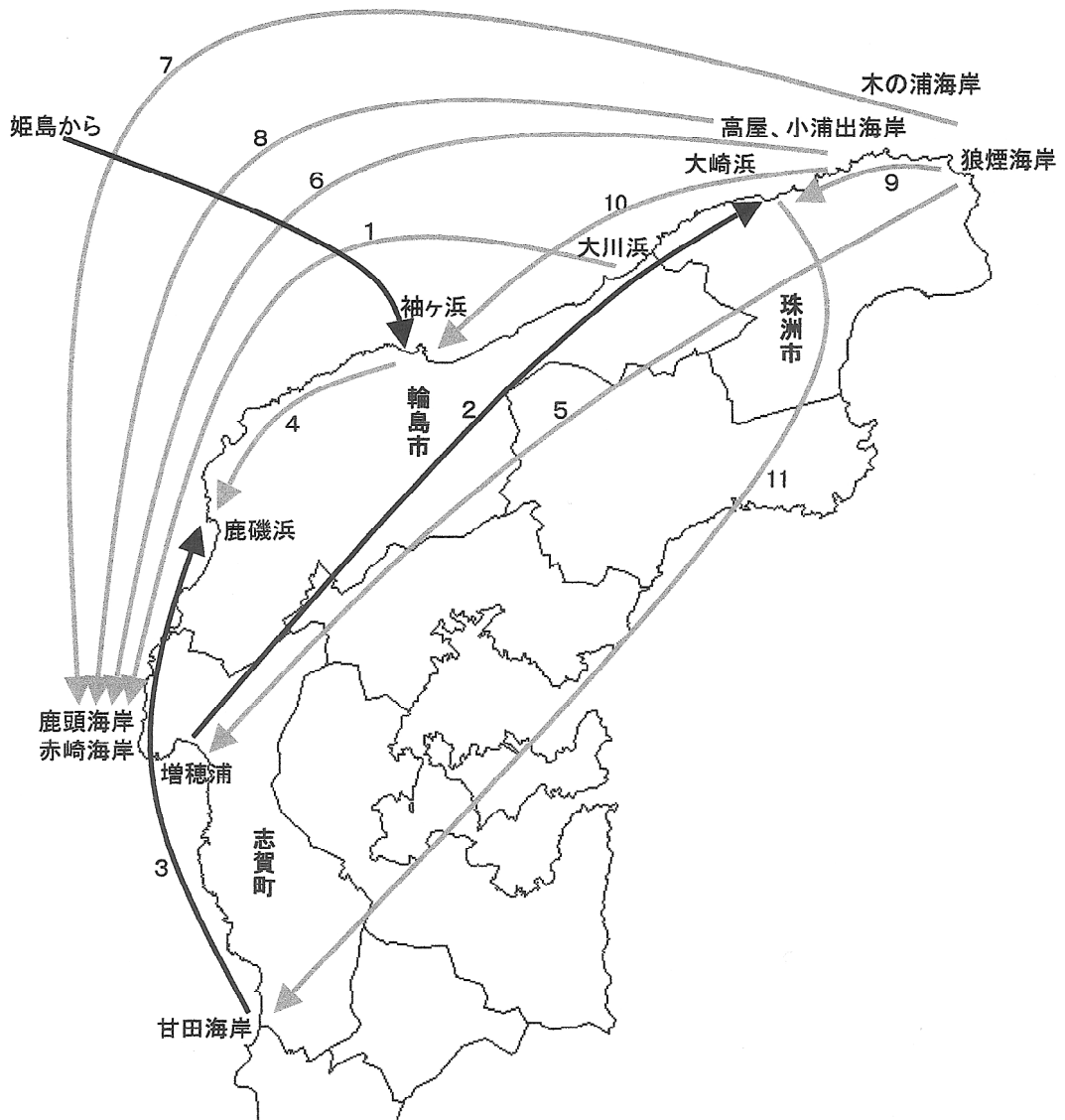


図5. 短距離移動が観察された放蝶地と再捕獲地（2006年）
（番号は前ページの短距離移動番号を示す）

■謝 辞

日頃から輪島市周辺のアサギマダラに関する様々な情報をご提供下さり、輪島市袖ヶ浜を毎日のように調査していただいた日吉芳朗・南賀子ご夫妻、能美市山口海岸を毎日のように調査していただいた林 宏初氏、調査にご協力いただいた平松新一、日吉宏朗、日吉弥生、本多郁夫、細沼 宏、松木隆也、宮城信男、塩島保二、橘 英子、竹谷宏二、寺内芳江、床坊 紘、山前美智子の各氏、舩倉島の観察記録を寄せていただいた後藤義夫、浅井利明、中村暢男の各氏、これらの皆様に深くお礼申し上げます。

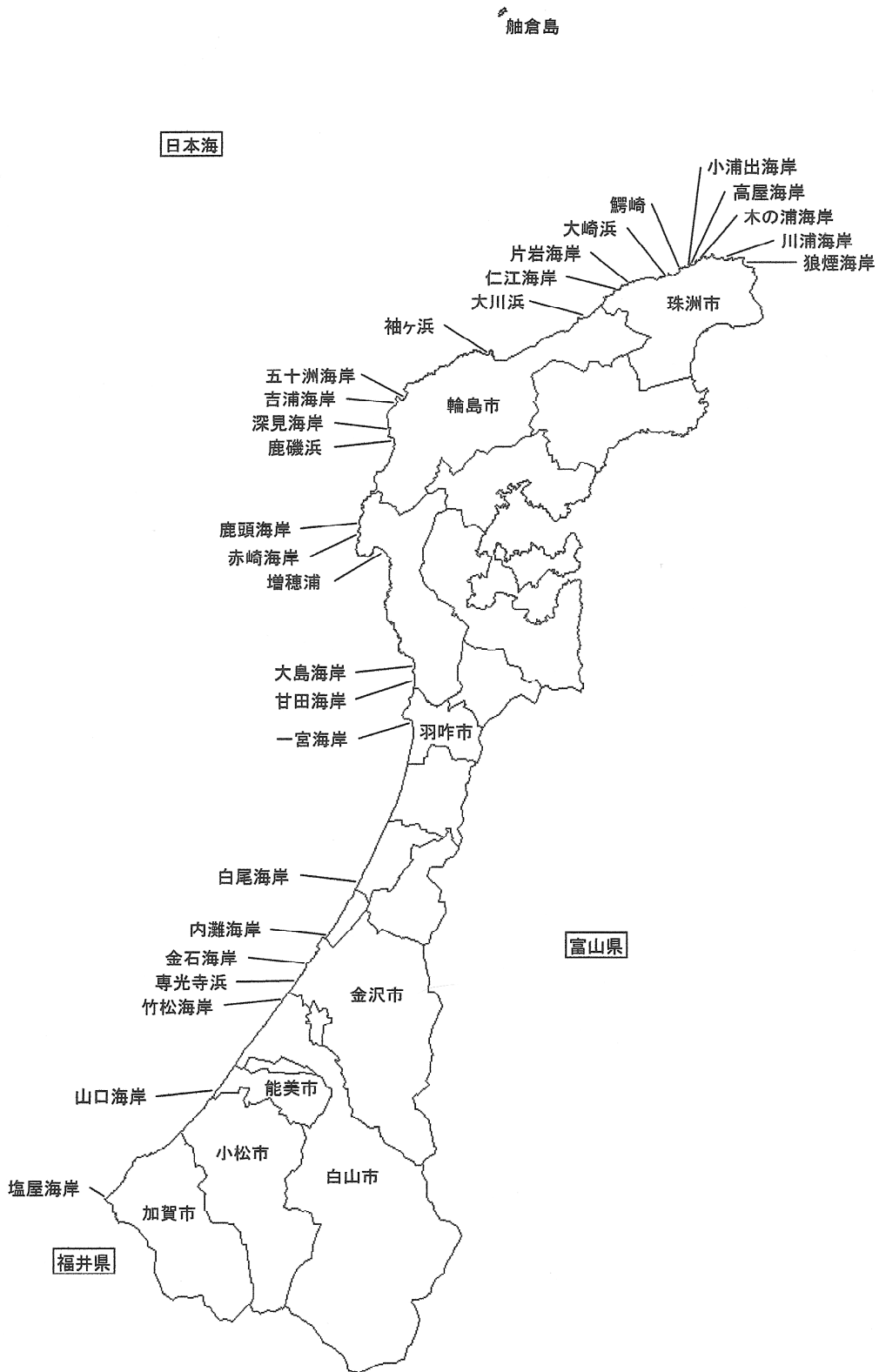


図6. アサギマダラの観察場所 (2006年)

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■震度6強の能登半島地震

3月25日午前9時42分に門前沖で発生した大地震は、震度6強の揺れを石川県にもたらし、輪島、穴水、七尾に大きな被害を与えた。輪島市の日吉氏は、間一髪のところ、倒れ込むタンスの下敷きにならず、難を免れた。

■全国制覇の道のりは長い

ギフチョウ全县を制覇した指田氏、韓国は南海島のチョウセンヒメギフに打って出た。自分のネットで採集することに生き甲斐を感じている氏、次なる産地は何处を見据えているのだろうか。

■舢倉島の夢と現実

連休中に鳥見で舢倉島を訪れた矢田氏、密かにアサギの観察も目論んでいたが、虫の少なさにガッカリ。3日間で見えた蝶は、瑠璃色のシジミが1頭のみ。

■誰が一番怪しいか

5月例会後、卯辰山にハルゼミの夜間採集に出かけた。集合場所に付いた頃は、12時を回り、暗闇の中にはエンジンをかけた車が何台か止まっていた。車道を駆け抜ける人影とすれ違い、ライトを持って林の中に入る。羽化個体を探していると、時々こだまする酔っぱらいの様な人声。暗闇の中では、全てが怪しく思えてくる。

■今年も北海道へ行くぞ～

細沼氏、5月はメチャ忙しで例会にも出席できず。連休が終わると、名古屋、東京、新潟、大阪、滋賀と出張の連打にも係わらず、間隙を縫って北海道採集行を計画中。

■ハルゼミは狙われている

明るい間に羽化殻が付いている樹をチェックし、夜間にハルゼミ採集。羽化個体を探していると、木の上でなにやら物音。ライトで照らすと、デカイ尻尾のデカイ猫で、ムササビ！と直感。羽化殻木巡りをしていると、頭上の音も付いてくる。ヤツもハルゼミを狙っているのか。

■コルリクワガタを探して東へ西へ

井村氏、百合谷、大山、医王山と、加賀のブナ林でコルリを採集しているが、宝達、石動、高洲、宝立など、能登のブナ林でも見つかるのだろうか。

■ラミーカミキリ北上中

温暖化の影響か福井県でラミーが北上している。国道を移動する車に付いて移動している可能性が高く、305号線沿いに福井市から坂井市に入ろうとしているので、石川県で見つかるのも、時間の問題かと思われる。発生は6月～7月で、人為的な環境や道路脇のカラムシで見つっている。

■チョウの渡りを観察しよう

アサギマダラの飛来シーズンが近づいてきた。加賀市から珠洲市にかけて海岸調査の準備も整い、今や遅しと飛来を待ちかねている。珠洲市では、今年からアサギマダラ調査隊が活躍する。

■ハルゼミは狙われている2

ハルゼミの羽化個体は、暗い間はたくさん見つかるのに、陽が昇ると急に見つからなくなる。明るくなり、小鳥のさえずりが聞こえ出すと、急に少なくなる様な気がする。

■夜間採集の優れ物

ハロゲンランプ使用の充電式懐中電灯。百万カンデラの明るさは、年老いた眼でもはっきりくっきり見え、並の懐中電灯は足下にも及ばない。これを使えば、黒い小さな虫だって簡単に見付けられる。難は、5時間のフル充電で35分しか使えないこと。

■糞虫再び

食糞コガネ図鑑が出てから2年、怪しい魅力に取り付かれてしまった。カモシカ、サル、クマ、イノシシ、キツネなど、糞を見付けると、つい崩したくなる。棒を拾って崩し始めるが、気が付くと素手で触っている。カリントウの様なかawaii糞、両手で割ると中から光り輝く虫が転がり出てきた。

■約束したのに

エゾシカの群れに遭遇したり、ヒグマの恐怖と戦いながら2人で仕掛けたオサムシトラップ。入ったのはオオルリだった。氏と出かけると成果も上がり楽しかったが、今回は1人で行くことになった。「次はオシマルだ！細沼さん」と約束していたのに、中西氏は1人で違うところへ逝ってしまった。

■例会の記録■

4月5日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は井村会長が整理した故中西重雄氏採集の甲虫約千頭、松井氏が集めた早春虫情報、浅地氏が集めた水戸昆るりぼし情報が、持ち込まれたが、悲しいかな参加はこの3人だけだった。

■例会の記録■

5月10日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、5月の下旬から6月中旬にかけて石川県の海岸に飛来するアサギマダラを松井氏が紹介し、観察を依頼。

その他の話題は、ヒメシジミDNA標本の依頼、各地のコルリを探している、生き虫は死んで第2の人生を歩む、加賀市でラミーが見つかるかも、ハルゼミを取り合う黒い影、アカエゾやエゾハルは燈火に来るか、などなど。

参加は、井村、松井、吉岡、浅地、浅野、大脇の6人。

■■ 表紙デザイン：小幡英典 ■■

目 次

大脇 淳：アサマイチモンジをタニウツギから採卵し成虫まで飼育	1
日吉芳朗：輪島市で再びキタテハの黒化異常型を採集	3
松井正人：石川県に於けるアサギマダラの北上移動調査2006	4
編集部：会員の動き・しゃばの動き	11

翔 186号

Tobu 2007年6月10日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121

☎076-258-2727

郵便振替

00750-8-562

印刷

小西紙店印刷所

